

会議録

会議の名称	令和８年度 第２回和泉市教育委員会評価委員会
開催日時	令和８年５月２９日（金）午前１０時００分～午前１１時２０分
開催場所	和泉市役所３Ａ・３Ｂ会議室
出席者	教育委員会評価委員 委員長 杉田 菜穂 委員 川合 直人 委員 小松 佐穂子 教育委員会事務局 教育次長兼教育部長 鍛冶 公哉 生涯学習部 部長 山村 邦弘 次長兼文化遺産活用課長 森下 徹 生涯学習推進室長 藤井 満 生涯学習推進室生涯学習担当課長 橋本 吉人 生涯学習推進室スポーツ振興担当課長 富岡 大作 生涯学習推進室青少年センター所長 藤原 寛 生涯学習推進室地域教育推進担当課長 藤木 守 久保惣記念美術館館長代理 横田 昌幸 教育部 次長兼教育総務課長 奥 信介 教育総務課長補佐 大西 薫 教育総務課総務企画係長 吉田 昌史 教育総務課総務係主事 松尾 亜美
会議次第	１．開会 ２．評価委員紹介 ３．職員紹介 ４．スケジュール確認 ５．生涯学習部ヒアリング （１）久保惣記念美術館 （２）文化遺産活用課 （３）生涯学習推進室
ヒアリング内容	
取組項目番号１６ 小松委員	近年、外国人コミュニティが増加傾向にあり、外国人に対する支援を外国人が行う事例を聞くと、日本語サロンの状況はどうか。
橋本課長	本課では、外国人に対して、日本語による日常会話に触れる機会を提供することを目的に日本語サロンを実施しているが、現在のところ、外国人がサポートを行う事例はない。
杉田委員長	近年、全国的に外国人住民が増加している状況にあることから、日本語

取組項目番号 17 杉田委員長	習得以外の支援、対応についても、部署間連携しながら取り組んでほしい。
川合委員	はたちのつどいについては、会場敷地内での飲酒等の継続した課題があるが、大人になった人たちを祝い励ます良い行事であることから、引き続き、課題に対応しながら取り組んでほしい。
小松委員	PTA 活動がない 3 校についても、保護者、教員が連携した取組みはあると思うが、小学校で PTA 活動を廃止すると、同じ校区の中学校でも PTA 活動がなくなるという懸念が生じる。 PTA 活動の存続、他校の PTA との情報共有、つながりを維持するためにも、引き続き PTA 協議会の取組みを進めてほしい。
取組項目番号 19 小松委員	PTA 協議会への活動補助を行うことで、本協議会と各学校の PTA の繋がりができたり、PTA 活動を存続する一助となっていることを評価する。
富岡課長	信太山クロスカントリーの目標参加者数は。 近年の参加状況（R6：1,588 人、R7：1,538 人）から、2,000 人を目標にしている。
取組項目番号 20 杉田委員長	市民文化祭の参加者数が昨年と比べて増加していることについて評価する。引き続き取り組んでいただきたい。
取組項目番号 21 杉田委員長	インバウンド需要を把握し、英語版や中国語版の HP により市の文化財をアピールした取組みについて評価する。 引き続き、情報発信の多言語化に努めてほしい。 また、文化遺産施設や文化財の PR については、地域活性化の観点も含め、美術館とのタイアップやインフルエンサーの活用などの取組みについても検討してほしい。
取組項目番号 22 杉田委員長	来館者数増加をめざし、ファミリー層に向けたイベントを実施したことについて評価する。 今後も、来館者の属性や企画の好み等の分析をしっかりと行い、これま

	での取組みの継続に加え、より新しい取組みについても努めてほしい。
川合委員	従来の美術ファンだけでなく、多様な層に向けた多面的な取組みを行っていることについて評価する。
小松委員	小・中学校の授業の一環として美術館を訪れるなどの取組みは、子どものうちから美術館に親しみを持つ良い機会となると思う。
横田館長代理	市内の小学６年生には、文化・芸術体験として美術館を訪れる機会を設けており、継続して実施している。 今後も小中学生が美術館に親しみを感じられるような取組みを行っていきたいと考えている。
取組項目番号２３	
杉田委員長	こども会育成連絡協議会に加盟していない団体については、活動内容や人数を市で把握していないとのことだが、市はそういった団体との何らの関わり、状況把握のようなことはしているのか。
藤木課長	こども会育成連絡協議会に加盟していない団体とは直接的な関わりがない。市としては、こども会育成連絡協議会加盟団体を増加させることを目標としており、加盟していない団体の状況把握をするため、町会連合会を通じたアンケートを実施したいと考えている。
杉田委員長	こども会同士の情報交換、活動活性化にもつながることから、協議会加盟をぜひ働きかけていただきたい。
小松委員	こども会の活動状況に地域差はあるか。
藤木課長	こども会育成連絡協議会に加盟している団体については、特に地域差はない状況である。
取組項目番号２４	
川合委員	留守家庭児童会支援員に対する研修を年間１２回実施していることについて評価する。 配慮を要する子どもについては、どのように学校と情報共有しているのか。
藤木課長	配慮を要する子どもについては、留守家庭児童会入会時に学校から情報

	提供を受け、入会後も都度情報共有を行い、対応についても適宜、学校と協議を行っている。
取組項目番号 25 杉田委員長	利用者ニーズをしっかりと把握していることを評価する。今後もニーズを踏まえた取組みを続けてほしい。 昨今は男性（父親）が育児を行う割合も高くなり、男性が子どもを連れてくることも多くなっていると思う。そういった背景も事業を検討する材料になると思うので、利用者の属性の変化も把握のうえ、取り組んでほしい。
川合委員	どろんこ子ども会の今後の課題について教えてほしい。
藤原所長	（仮称）富秋学園開校後は留守家庭児童会機能を移転するため、現在、平日の放課後等に、どろんこ子ども会を利用している幸小学校の子どものうち、保護者が就労等をしている子どもは、（仮称）富秋学園の留守家庭児童会を利用することになる。 一方で、どろんこ子ども会は居場所づくりとしての機能を継続して担うため、その部分については、（仮称）富秋学園開校後も変わりなく利用していただけるよう、内容についてしっかりと検討する必要がある。
小松委員	利用者ニーズに適切に対応していることを評価する。 事前質問の回答について、達成目標の「講習講座等の参加率」は、定員を上回る応募については 100%、下回る場合にのみ実数で算出するのであれば、定員を超えた申込みがあってもそれを実績値に反映できないのではないか。例えば定員を増やしたために達成率が下がったということはないか。
藤原所長	定員は多い講習講座で約 30 人、少ない講習講座で 18 人であり、定員の数で応募率が変わることはない。 青少年センターで実施する各種講習講座がどの程度人気があるのかを評価するためにこの指標を用いている。
取組項目番号 26 杉田委員長	指定管理者の自主事業として「電子図書館出張体験会」を実施しているが、桃山学院大学で開催したねらいは何か。
橋本課長	桃山学院大学は、最寄り駅が和泉中央駅で、駅から学校まで歩く途中にシティプラザ図書館があることから、桃山学院大学の学生を対象にした。

杉田委員長	令和 7 年度は、5 月に桃山学院大学において、図書館出張体験会の他、ロビーにおける図書カードの発行、学祭でのブース展示を行い、図書館の PR を実施した。 大学生をターゲットにした取組みを行うのであれば、併せて、図書館の学習スペースを拡大するなどを検討しても良いと思う。 （ターゲットのニーズに応じた取組みの検討が必要である）
取組項目番号 27 杉田委員長	米国ブルーミントン市への交換学生の応募状況を教えてほしい。 英語力のみでの選考ではないという認識でよいのか。
橋本課長	令和 7 年度は、10 人参加のところ 100 人程度の応募があった。 （コロナ後に事業を再開し始めた 4 年前からは）英語による面接で選考を行っていたが、英語力が非常に高い学生のみが選考される結果となったことから、令和 7 年度は、幅広い学生が参加できるよう、英検 3 級以上取得を応募の条件とし、日本語による作文、面接のみで選考を行った。
杉田委員長	選考方法を変更したことによる効果や課題もしっかりと分析し、今後の取組みにつなげてほしい。
川合委員	選考方法を変更したことで、英語力だけでなく、意欲の高さなど、多様な学生が参加できたことを評価する。 以上